岐阜大学教育学部同窓会報　第12号

同窓会と母校の発展を願う

同窓会長　中舍　美津男

はじめに

この会報が、２万人余の会員の皆様のお手に届くのは、年末か平成19年の新春の頃かと思います。皆様方には、それぞれの地にあって、無くてはならない人としてご活躍の事とお慶び申しあげます。

私達の同窓会は、総務部を始め、事業部、組織部、広報部がそれぞれ当初の計画に基づき、着実にその歩みを続けています。概略に就きましては、本会報にそのごく一端が掲載してあります。ご一読の程よろしくお願い申しあげます。

母校の発展が本会の発展に連動

私達の同窓会の発展・充実は、母校の発展と連動していることを実感しています。幸い私達の母校は、全国700を超える国・公・私立大学の学長による「教育分野、研究分野の発展する可能性のある大学」において、それぞれ15位と22位と評価されました（平成17年度）。

平成16年度の文部科学省による「特色ある大学教育支援プログラム」と「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」の二つの分野でＧＰ（Good Practice）に採択され、平成16年度と平成17年度の２年間にわたって精力的に実践がなされました。多くの成果を全国の他大学に示すことができました。

今年度は、「資質の高い教員養成推進プログラム」の分野でＧＰに採択され、平成18年度と平成19年度の２ヵ年をかけて、開発・推進がなされています。具体的には、「大学院における高度専門職業人養成に係る取組」であり、「教育臨床実習重視の教師発達支援プログラム」の実践であります。詳細は、本学のホームページを開いて見て下さい。

極めて少数しか採択されないＧＰが、連続的に採択され、先進事例として他大学等に情報提供がなされていることを誇りに思います。誠にありがたいことであります。

母校における臨床的な教育の実践（中間）が、出口（就職状況）を良くし、出口の豊かさが、入口（入学状況）の活況を呼ぶという好循環を示しています。

本会の目的の一つに、「母校の発展に寄与する」というのがありますが、母校のご活躍に支えられつつ、同窓会員としては、それぞれの地域社会においての一人ひとりの活躍度をもって母校の評価を高めることに貢献するものと信じ

ています。

教員採用試験受験者の増を！

平成17年度の教育学部の就職率は、教育系の学部としては、全国のトップクラスを維持していますが、教員を希望する学生の絶対数が今一つ少ないのが残念であります。新入学の学生諸君や保護者の皆様にも、教員の生きがいや生活の実状などを具体的にお話をしています。教育学部のＡＣＴプラン（１年生から４年生まで全ての学年に実践科目を位置付けたカリキュラム）の充実とともに、新しい時代に必要な教員志望者の増加を期待しています。本年度も、教員採用試験受験者の合格率の高さに胸をなでおろしています。

同窓会の意義

変化の激しい社会にあって、ホッとやすらぎをもたらすのは、仲間意識であり、「人と人との絆」であります。かつて同じ学校で学んだという共通の財産があるというだけで、前置きなしに心が通じ合うものです。年令差や地域差を越えて同窓生というだけでホッとする場合が多いことと思います。

岐阜新聞の編集余記に次のような記事がありました。

精神科医で、防衛医大教授の高橋祥友さんによると、身の回りや職場などで悩んだり、落ち込んでいる人に接するには、「ＴＡＬＫ」を心がけるとよいそうです。「ＴＡＬＫ」には話すという意味があり、コミュニケーションで重要な要素の頭文字でもあります。

「Ｔ」はtellで、「告げる」「あなたのことを心配している」「力になりたいと思っている」と伝える。

「Ａ」はaskで、何で悩んでいるのか率直に「尋ねる」。

「Ｌ」はlistenで「聴く」。悩んでいる人の言葉を傾聴する。やみくもに「頑張れ」と激励するのでなく、「分かるよ」と受け入れる。

「Ｋ」はkeep safeで、「安全を保つ」。悩んでいる人が、さらにストレスにさらされたり、危険な状態にならないように注意する。

「ＴＡＬＫ」は、つまりは身近な人の様子に気を配り、落ち込んでいるなら、悩みを分け合うこと。

同窓会の意義とまったく同根だと感じました。会員相互が、さりげなく、ごく自然に「ＴＡＬＫ」し合う仲間関係が出来上がっています。昨今のご時世ゆえにこの精神を更に大切にしたいものです。

おわりに

年１回の会報だけでは、約２万名の同窓会員とのコミュニケーションを密にはかることは困難であります。

卒業生の愛校心の継続・発展には、インターネットは最適のツールであると思います。幸い全学あげて、良質の情報が絶えず提供されています。本会報ともどもぜひとも有効活用のことを願っています。

本会の発展は、母校の発展と連動している事を実感するとき、歴代の教育学部長様を始め、本学部の教職員各位、とりわけ同窓会員で本学部在籍の先生方の熱きご指導等、それぞれの場で、直接・間接にご尽力賜っております多くの皆様に改めて感謝申しあげます。

教育学部の現状と将来

教育学部長　古田　善伯

今年の７月に中央教育審議会から「今後の教員養成・免許制度の在り方について」の答申が出されました。この内容の一部については昨年の報告で触れておきましたが、今回はこの答申内容を中心にして、本学部の今後の対応について報告させていただきます。

この答申は３つの柱で構成されています。１つは「教職課程の質的水準の向上」、２つは「教職大学院」の設置、３つは「教員免許更新制の導入」となっています。そこで、これらの概要を以下に示すことにします。

「教職課程の質的水準の向上」では「教職実践演習（仮称）」という科目が新設・必修化されてきます。この演習には教員として求められる４つの事項（①教員としての使命感や責任感等、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児・児童・生徒理解に関する事項、④教科等の指導力に関する事項）が含まれており、実施に当たっては、演習（指導案の作成や模擬授業・場面指導の実施等）や事例研究、グループ討議等を適切に組み合わせて実施することや、教職経験者を含めた複数の教員の協力方式により実施するよう示されています。また、この演習では教員としての資質能力を確認するための総合的な実践を行うことが求められており、卒業時にはこれまで以上に確実な教育実践力を身に付けている必要があり、そのための厳格な評価が行われることになります。したがって、この演習では教員としての一定の質保証を確実に行ってから卒業させるという考え方だといえます。

本学部では「教職実践演習」が実施されることを念頭において、これまでに進めてきたＡＣＴプランをより充実させて対応していきたいと考えています（http://www.ed.gifu-u.ac.jp/~kyoiku/index.htm、本学部のホームページを参照）。また、この演習を実施するに当たっては、同窓会の皆様のご支援をお願いすることになると思いますので、よろしくお願いいたします。

「教職大学院」の概要については昨年報告しましたので、ここでは省略することにしますが、本学部としては平成20年度の設置を目指して、その準備を進

めています。

「教員免許更新制」については、この答申が出されるまでに最も長時間議論されたと伺っています。この制度は「その時々で求められる教員としての必要な資質能力が保持されるよう、定期的に必要な刷新（リニューアル）を図るための制度」として導入しようとするものです。答申の解説によると、現職教員は10年ごとに更新することになりますが、いわゆるペーパーティーチャーは実際に教員になる時点で更新することになります。この制度が実施されると教員としてのライフステージの中で３回更新することが考えられます。また、この更新をどこで行うかということですが、教育委員会だけでは対応できないため、本学部を含めて教職課程の認定を受けているすべての大学がこの更新のための授業等を行うことが考えられます。しかしながら、この免許更新制の実施については多くの課題が予想されますので、どのように実施されるかは現時点では不明といえます。

以上、答申の内容について説明してきましたが、本学部としてはこの答申の内容を踏まえた方向で組織及びカリキュラムの改革を進めていきたいと考えています。今後も同窓会の強力なご援助を頂くことになると思いますが、本学部の発展のため、一層のご援助、ご協力をお願いする次第です。

平成18年10月

平成18年度岐阜大学教育学部同窓会評議会

平成18年６月３日
評議員155名中出席48名　委任状107名
来賓　教育学部　古田　善伯　学部長
教育学部　松川　禮子　副学部長
教育学部　岩田　恵司　副学部長

次第

1．開会のことば　　同窓会副会長
2．会長挨拶　　中舍　美津男　会長
3．来賓挨拶　　古田　善伯　教育学部長
4．議長選出
5．議事　①　平成17年度事業報告
②　平成17年度決算報告
③　監査報告
④　同窓会長推挙委員選出について
⑤　平成18年度事業計画
⑥　平成18年度予算審議
⑦　その他
6．閉会のことば　　同窓会副会長

評議会報告

1．平成17年度事業について

総務部会

17年度事業として、同窓会リーフレットの作成、学部連携事業について、準会員及び新入会員就職支援事業について、ホームページの充実事業について報告がありこれを承認した。

組織部会

同窓会名簿管理新システム導入、個人情報保護に関する取り組み、名簿作成助成について説明がありこれを承認した。

広報部会

平成17年度広報誌発刊について説明がありこれを承認した。

事業部会

平成17年度教育実践助成事業について経過報告及び「入賞論文集」の紹介がありこれを承認した。

2．平成17年度決算について

決算書に基づき報告があった。続いて会計監査報告がありこれを承認した。

3．同窓会長推挙委員選出について

理事会で選出された選挙管理委員

渡辺　義行副会長、臼井　敏雄組織部副会長、辻　泰秀事業部副会長

のもと、推挙委員の選出がされ以下の５名を推挙委員として選出した。

北島　幸彦（数学）Ｓ36　　後藤　忠喜（数学）Ｓ38
西村　覚良（史学）Ｓ38　　伏屋　敬介（技術）Ｓ38
三羽　幸夫（音楽）Ｓ38

第一回推挙委員会が開催され委員長に北島　幸彦氏が決定した。

4．平成18年度事業計画及び予算書について提案がありこれを承認した。

平成17年度教育学部同窓会決算報告

「一般会計」

収入の部

科目	決算金額
前年度繰越金	4,518,851
同窓会費	8,130,000
雑収入	101
合計	12,648,952

支出の部

科目	決算金額
運営費	2,774,480
庶務費	1,599,088
消耗品費	726,243
役員会費	309,179
通信費	139,970
組織活動費	868,065
名簿管理費	777,630
名簿作成助成費	90,435
学部援助費	1,061,605
学部活動援助費	737,095
学生活動援助費	324,510
事業活動費	1,701,816
教育実践事業費	1,701,816
広報活動費	2,393,770
会報印刷費	525,000
会報発送費	1,868,770
次年度繰越金	3,849,216
合計	12,648,952

「同窓会事業活動基金」

収入の部

科目	決算金額
繰越金	45,231,171
利息	7,371
合計	45,238,542

支出の部

科目	決算金額
次年度繰越金	45,238,542
合計	45,238,542

「同窓会教育実践事業基金」

収入の部

科目	決算金額
繰越金	5,077,972
利息	205
寄付金	200,000
合計	5,278,177

支出の部

科目	決算金額
教育実践論文顕彰費	200,000
次年度繰越金	5,078,177
合計	5,278,177

平成18年５月評議会で承認済み

平成17年度教育実践研究助成事業の報告

事業部会長　江端　雅司

本同窓会事業の大きな柱である教育実践研究助成事業も、今年度で第21回を迎えた。その間、実績が伝統を創り、伝統が権威を醸しだし、県内の小中学校の教職員にとって、応募することは大きな目標であり、憧れとなってきた。

岐阜大学が現在地の柳戸に統合移転した際の記念事業として昭和60年に発足したが、折しも臨教審答申が出される前後であり、時代を見据えた教育実践研究事業で、岐阜県における義務教育の振興と発展に大きく寄与してきた。

平成17年度の教育実践研究助成事業は、岐阜県教育委員会、各教育事務所及び各市町村教育委員会のご支援により、「入賞論文集（第21集）」が発刊された。名実ともに実践研究の集大成として燦然と輝く論文集である。

1　応募状況とその傾向

本年度から、実施要綱が変わったため、応募数が減少するのではないかと関係者は心配したが、1,464名の方々から1,444編の論文の応募があった。内訳は、校長12名、教頭19名、教諭1,388名、養護教諭34名、栄養職員２名、事務職員５名、ALT等４名である。性別では、男性760名、女性704名、校種別では、小学校826名、中学校638名である。今年度もALTの応募があり、この事業がすべての教職員から幅広く認知されていることが裏付けられる。

論文の領域については、1,444編の内、教科は974編で算数・数学科が多く、続いて国語科、社会科、理科の順で、４教科で635編を占めた。４教科以外では、保体、英語が多かった。他の領域では、学級経営、特殊教育、総合的な学習の応募が目立った。

全体的な傾向としては、例年通りの応募数で、個人研究論文が主体ではあるが、校内の研究グループの息吹を感じる論文も多数あった。

2　審査会の動向

審査の観点は、

(1)　教育の今日的な課題を踏まえ解決の方向が明確であるか

(2)　目標、計画、指導、評価の一体化が図られているか

(3) 児童生徒の成長や変容の姿が表れているか
(4) 創造性・妥当性が見られ、説得力のある論文であるか
(5) 教育実践・研究論文として明確な表記であるか

の５点で、例年同様、厳正に審査が行われた。

最優秀賞は、岐阜市立長良東小学校の川田英樹教諭の論文「社会的事象を自分の生活とのかかわりで考える子が育つ社会科学習～自分の考えをもち、仲間と練り合う授業をめざして～」に決定した。

川田英樹教諭の論文は、児童の実態や教科の目標等を踏まえ、実践に基づいて理論を構築していく筋道が明確である。また、自己選択を取り入れるなど、児童が学習の主体者としての自覚を持って、調べ考え、学び合って、社会的事象に対して確かなものの見方や考え方を身に付けることができるよう努力されており、極めて優れた論文であると評価された。

審査の過程で、それぞれの教育実践論文の優れている点、課題及び改善点等について交流した。

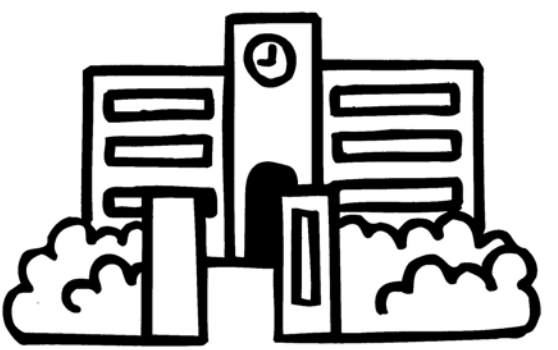
(1) 実施要綱にそって、各論文の冒頭に「概要」が位置付けられ、主題具現の構想が分かりやすく、レベルの高い優れた論文が多い。また、教師の確固たる指導理念のもとに、きめの細かい手立てを講じ、子供の変容していく姿が的確に捉えられている。
(2) 10頁という限られたスペースの中で、まとめ上げ理論に裏付けされた事例が掲げられている。しかも、資料編には補説を含めて各種資料がきちんと位置付けられており、実施要綱の意図するところを踏まえた論文が多い。
(3) 論文のための論文でなく、子供たちに真に生きる力を身に付けさせるため、絶えず真摯な取り組みをし、自己研鑽に励む姿に敬意を表したい。そうした教職員の姿を将来、教員を目指す学生たちにこの論文を通して伝えていきたい。（岐阜大学教育学部教授で審議委員の意見）
(4) 研究の筋道はよく分かるが、研究内容の中身よりも方法が多過ぎ、羅列的になっている。もう少し焦点化すると、もっと深まりのある研究になる。
(5) 今年度から、論文の冒頭に概要が記載されるようになり、今後、論文のテーマや内容について、どのような研究がなされたか、先行研究が生かされる工夫をしたらどうであろうか。例えば、概要の中の「キーワード」で検索できるようにするとか一考したいものである。そのためにも、「キーワード」はゴシックで表記したい。

3　新たなスタートの２年目

今年度の応募論文を年代別にみると、20代は437名、30代は538名、40代は359名、50代は130名で、各年代の教職員の意気込みを感じることができる。

自己の実践の歩みをまとめ上げ、世に問うことは、また新たな自己を構築することになり、自己研鑽する生き方に敬意を表する次第である。

新しい「実施要綱」となって、平成18年度は２年目となる。A版10頁に論文をまとめ上げる要領も定着してきたと言えそうである。平成18年度も岐阜県教育委員会、各教育事務所及び各市町村教育委員会のご支援・ご協力をいただくことになっている。奮って応募くださるようお願いしたい。（「平成17年岐阜県小中学校教育実践研究入賞論文集―第21集―」、参照）



教育学部特別合宿研修報告

１．経　緯

ACTプランでは、学生は１年生より教育現場にでて体験を通して大学での授業に臨むこととなっている。本プランのより効果的な実施をする上で、入学直後の１年生に対して、高校の教育システムと大学の教育システムの違いを理解させ、意識改革を速やかに図っていく必要がある。そこで、学生の大学教育システムの理解を進め、更に大学生活の中で学生と教員の意思疎通をはかることを目的として、学部１年生を対象として本研修計画を位置づけた。

２．目　的

ACTプランの趣旨を活かして１泊２日の合宿研修を行い、学生相互および教員との意思疎通を促し、本学部の教育システムの理解および集団生活の体験の機会とする。

３．内　容

１）日時：2006年６月10日（土）、11日（日）

２）場所：岐阜県御嶽少年自然の家（下呂市小坂町落合2376-1　濁河温泉地内）
http://www.pref.gifu.lg.jp/pref/s27216/index.htm

３）経費：交通費（貸切バス利用）は特色ＧＰの企画として支出
宿泊費・食費などは個人負担（総額2000円）

４）参加枠：１年生及び教員を原則とするが、必要に応じて（研修内容との関係で）２～４年生・院生の参加も認める。

５）研修企画：具体的な内容については参加講座・研究室で別途立案した。

４．参加講座

数学、地学、英語、特別支援、美術、生涯教育

2007年教育学部オープンキャンパスへの御案内

2007年度より全学オープンキャンパスの一貫として教育学部オープンキャンパスが実施されます。
同窓会ではこの企画に協賛して同窓生各位の教育学部オープンキャンパス参加と教員交流会を計画しています。参加をお待ちしています。
日時など具体的な実施計画は同窓会ホームページをご覧ください。

教育学部同窓会カレンダー完成

『教育学部同窓会平成19年度カレンダー』が完成しました。（サイズ：22cm×15cm）
本カレンダーは平成18年度本学部卒業者には学位授与式後の祝賀会場にて無料配布します。

カレンダーは岐阜大学の生協で一部500円で販売しております。

ご存知ですか　教育学部同窓会庭園

岐阜大学教育学部が長良キャンパスから現在の岐阜市柳戸に移って二十余年。この柳戸の地に長良から持ってこられたものがいくつかあります。ここでは、そのうちの同窓会の手によるものを二つ紹介します。

1　教育学部：記念庭園

本館裏、西側の中庭がそれです。記念庭園碑の裏には、「贈　昭和58年岐阜大学教育学部同窓会」とあります。たくさんの樹木が植えられていますが、全て長良キャンパスからの移植によるものです。

……松、槇、梅、椿、樫、柘（つげ）檜（ひのき）、比婆（ひば）、金木犀（きんもくせい）、百日紅（さるすべり）、柊南天（ひいらぎなんてん）…など、静かな落ち着いた緑の環境を創り出しています。芝生に覆われた園内にはベンチが置かれ学生の憩いの場となっています。

大学へ来られましたら是非一度お立ち寄り下さい。

カレンダーの写真と同じです

2　本館入り口「槇の庭園」

教育学部本館入り口に学部を示す石碑があります。長良キャンパスから移植した槇の木７本に囲まれ、どっしりと落ち着いた庭となっています。

石碑の裏には、こちらも「贈　昭和58年岐阜大学教育学部同窓会」と刻まれています。

教職員をめざす皆さんへ　私の出会った子供たち

恵那市立恵那東中学校　高木良太（平成９年度史学科卒）

今から９年前、私は小学校２年生の担任として、初めて学校へ赴任しました。子供から初めて「先生」と呼ばれたときの照れくさい感じは今でもはっきりと覚えています。私の教員としての出発点でした。それから９年間、私は様々な子供たちと過ごしてきました。

小学校の低学年では、素直でかわいい子供たちが印象的でした。大嫌いだった牛乳を飲めるようになったことをうれしそうに話す子、家族参観の後、父親と間違えて「お父さん」と話しかけてきた子など、日々の子供たちの動きに、笑顔の絶えない毎日でした

高学年を担任した時には、授業で仲間と真剣に意見を戦わせる子、友達関係や学習のことで悩んで相談に来る子、大縄大会や運動会で感動して涙を流す子など、低学年とは違う成長した姿を見ることができました。小学校勤務の６年間は、子供たちが日々成長していることに気付かされたり、その場面に立ち会うことができることに喜びを感じたりすることができた６年間でした。

そして、３年前、私は中学校へ赴任することになりました。小学校勤務が続いていたために不安もありましたが、赴任してみると、小学校とはまた違った感動に出会うことができました。

日々の授業や生活の中で、体育大会や合唱などの行事を通して、集団として、人間として成長していく生徒たち。大人になりたい部分と子供のままでいたい部分が混在している生徒たち。時々不安定な時期もありますが、生徒たちと真剣に気持ちをぶつけ合うことで、互いに理解し、高め合うことができたと思っています。

これから私は、さらに多くの子供たちと出会うことになると思います。彼らの人生に影響を与えるなどということは考えていませんが、子供たちと共に泣き、笑い、同じ時間を少しでも過ごしていくことができればと考えています。

子供って　すごい！

長良東小学校　田中　郁江（平成14年度理科教育生物科卒）

教師は、私が考えていたよりも大変な職業です。しかし、私が考えていたよりもはるかにやりがいのある職業です！今の私にとって教師という仕事のやりがいを二つお話ししたいと思います。

一つ目は、子供たちと、「毎日戦ってるな」という充実感です。戦っているといっても、もちろん戦いをさせたり、喧嘩をさせたりするわけではありません。子供たちが「今日、学校楽しかった！」「今日の理科、おもしろかった！」など、目を輝かせながら言える場所や時間になるようにと、「これを見せてみよう、」「こういう言葉をあの子にかけてあげよう。」と作戦を練るのです。その作戦が成功し、子供たちの満足している表情や、何とも言えないうれしい表情を目の前にしたとき、「作戦成功！やったぁ！」という思いになるのです。なかなか作戦が思うような結果になることはありません。でも、クラスの子供たちの顔を思い浮かべながら、ああでもないこうでもないと考えることは、私にとって充実した時間です。

二つ目は、磨けば磨くほど、どんどん成長していくたくさんの子供たちとかかわりが持てることです。私がこう思うようになったのは、教師になって２年目の途中でした。それは、「何で思うようにしてくれないんだろう。」という思いが強かった私が、子供って、どの子もやる気とか、優しさを持っているんだと実感し始めた頃です。私は、隣の子の落とした鉛筆をさっと拾ってあげた子に「心が温かいね。Ａさんはうれしかったと思うよ。」と声をかけます。順番を譲って自分が後ろに回った子には、「自分が我慢して譲ってあげたんだね。きっとＢさんはうれしかったと思うよ。」と声をかけます。苦手な漢字を丁寧に書いた子には、めちゃくちゃ大きい花丸！雑巾がけを一生懸命にやっている子には、「あなたのおかげで床がピカピカになったよ。先生うれしいな。」と言います。とっても小さい事実かもしれませんが、それを「すごいね。」って言ってもらうと何倍ものパワーにもなり、何倍もの優しさにもなりました。良さを認め、価値付ければ、その分、ぐんと成長していく子供たちとかかわることに責任を感じると共に、そのことを誇りに思っています。

最後に。教師になって２年目。その年の３月。担任した３年生男の子に「僕をいっぱいいっぱいほめてくれてありがとう。」の言葉をもらいました。心が熱く熱くなったあの瞬間は一生忘れられません。

学生の就職状況について

後藤　忠喜

1　教員採用の状況について

本学部は教員養成を目的とする学部として設置されています。従って教師を目指す学生の就職状況が本学部の評価と密接に関わってきます。近年、教員の退職者の増加に伴い、教員採用の状況は徐々に改善の方向に向かっており、小・中・高・特殊ともに倍率に比し現役受験生の合格率は良い結果を出しています。しかし、我が教育学部にあって岐阜県全体に占める教員採用数が思ったより伸びていないのが現状です。

①教員志望の学生が177名（教員採用試験一次試験受験者数）と、全体の70％強にとどまっていること。（内岐阜県受験者は138名）

②昨年合格者数が多かった既卒者が、本年度かなり減少したこと。

③中学校・高等学校の専門科目がやや弱いと思われること。

などが挙げられる。

学部では、学生に対して教育実践現場での実習体験に基づいた「アクトプランカリキュラム」を平成17年度から本格実施しています。これらの成果が今後教員採用者数の増加に繋がることを期待する一方、同窓生各位の現役生あるいは講師をしている既卒者への一層のご支援をどうぞよろしくお願いします。

2　学部生・院生の平成18年度教員採用状況について

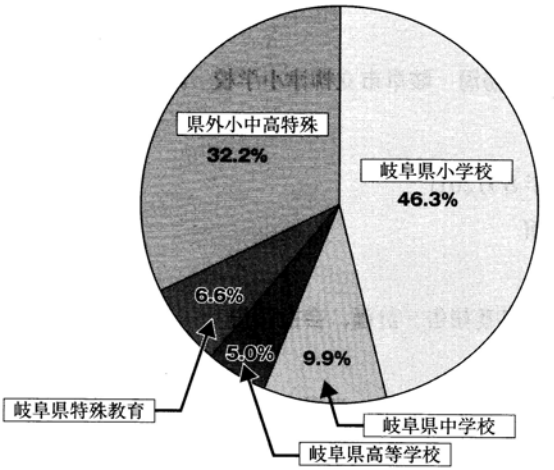
	岐阜県				県外小中高特殊
	小学校	中学校	高等学校	特殊教育	
学部生	52	11	4	8	37
大学院生	4	1	2	0	2
合計	56	12	6	8	39

数字は合格者数（名）を示す

以上、121名が合格でした。

尚、教員志望者で惜しくも採用試験に不合格となった学生には、来年度の就職及び平成19年度の採用試験に向けて、就職対策委員会・学部事務・教育指導担当講師が学生の窓口になって指導体制を整えています。

合格者の学部生・大学院生の校種及び県内外比率



3　既卒者の平成18年度教員採用試験結果について

臨時的任用などで岐阜県に採用されている既卒者で、岐阜県の教員採用試験を受験した方は161名です。内合格者は小学校33名、中学校７名、高等学校３名、特殊教育諸学校４名で、合計47名でした。

昨年ＯＢの方が多く合格されており、今年は受験した方が減少し、従ってＯＢの合格者は昨年の半数程度になっています。

既卒者で教師を目指して頑張っている方がいましたら、是非是非ご支援をよろしくお願いします。

各同窓会の活動

史　学　科　（事務局　岐阜市立柳津小学校　堀内潤一）

(1)　史明会総会

・期日　平成18年８月20日

・場所　岐阜会館

①　総　会

会長挨拶、事業報告・計画、会計報告

②　講　演

「岐阜の鵜飼　日本の鵜飼　世界の鵜飼」

講師　岐阜大学教育学部教授　伊東久之先生

・鵜飼の初見について

・日本と中国の平均的鵜飼の技術的相違点について

・鵜の越年方法について

・長良川鵜飼の特色について

③　懇親会

社会科（地理）　（事務局　岐阜県図書館　世界分布図センター　奥村雅人）

(1)　第32回同窓会「濃飛の会」…第38回生（代表　大口　隆）が担当

○期日　　平成18年８月５日（土）

○会場　　揖斐郡揖斐川町久瀬公民館

①　総会

・同窓会役員あいさつ

・実行委員あいさつ

・恩師の先生方のあいさつ

・次回39回生代表あいさつ

②　学習会

「完成間近の徳山ダムの概要とダム湖に沈む旧徳山村のくらしと文化」について

※徳山ダムの概要説明後、「徳山民俗資料収蔵庫」（道の駅「星のふる里ふじはし」内へ移動

(2) 次回活動予定　平成19年８月４日（土）
39回生（代表　福田　辰雄）

社会科（哲学）　（事務局　岐阜大学教育学部附属小学校　田中　明）

(1) 活動報告

① 定例代議員会

開催日　平成18年８月19日（土）

会　場　グランヴェール岐山

内　容　事業報告、会計報告、事業計画等

② 哲学科同窓会「哲学の集い」

開催日　平成18年８月19日（土）

会　場　グランヴェール岐山

内　容　講演　岐阜大学教育学部社会科教育　教授　小澤克彦　様

(2) 「哲学の集い」の概要（代議員会内容も含む）

今年度は、長年、岐阜大学の教育を支えてくださった小澤克彦先生のご退官記念講演を中心にして、「哲学の集い」を開催した。大学より小林月子先生のご参加をいただき、幅広い年齢層の卒業生を合わせて50名弱の参加となった。

代議員会では、今後の教育学部の組織改編を見据えながら、哲学科の同窓会をどのように運営していくべきかが話題となった。また、活動経費の確保、「哲学の集い」参加者増加に向けて話し合った。昨年度以来の課題であった会員名簿の整備についても、継続して取り組んでいくことを確認した。

小澤先生のご講演では、先生ご自身が「原点」として位置付けられてみえるギリシャの歴史や文化、思想について、数多くの史跡の写真をもとにしながらお話しいただいた。「哲学とは何か」という問いについて、古代ギリシャの人々の思想や小澤先生のこれまでの歩みから、貴重なご示唆をいただくことができた会となった。

数　学　科　（事務局　山県市立美山中学校　森川勝介）

1　同窓会名簿「わしょう」の改訂

来年度の同窓会名簿発送に向けて、改訂作業を行った。

2　今後の活動予定

・数学科卒業予定者に対して、数学科同窓会「わしょう会」の組織・規約等の説明会を行う。（平成19年２月予定）

・運営委員会を行い、来年度の計画を立案する。

・総会の案内を発送する。（平成19年３月予定）

地　学　科　（事務局　岐阜市立島中学校　古田靖志）

地学科は、同窓会活動をより一層充実させるために、役員の集まりを持ち、今後の同窓会活動の在り方を検討した。また、有志により、地学教育に関わる研究会を開催するとともに、親睦会を開催した。

音楽学科　（事務局　三羽幸夫）

○機関誌「間」第36号（年１回）の発行

○機関誌「間」編集委員会の開催

○理事会、本部役員会の開催

○事務局会の開催

○規約改正案の検討

○第14次本部役員の改正案の検討

（立候補者の受け付け並びに候補者の人選）

○第14回御同窓会総会・懇親会（平成19年11月に予定）の原案検討

体　育　科　（事務局　岐阜市立明郷中学校　石子　裕朗）

(1)　総会、還暦祝いの会及び懇親会

○期日　18年６月10日（土）　75名出席

○場所　ホテル「グランヴェール岐山」

①18、19年度の役員の承認

②新人会員（18名）と物故者（３名）の報告

③17年度会務、事業報告、会計報告及び監査報告

④18年度事業計画及び予算案の承認

⑤大学の近況報告

(2) 事業の内容

①18年１月から６月の間に役員会を３回、常任理事会を１回開催して各種事業について検討した。

②在学生優秀選手の選出を行い、２月11日に表彰した。対象者26名にメダル及び賞状を授与した。（役員２名出席）

③３月24日に新入会員の入会式を開催した。（役員４名出席）

④役員改選については会計１名だけを改選し、他は留任する案を総会に提出することで一致した。

技術・職業学科

（事務局　岐阜大学教育学部附属中学校　淀川雅夫）

(1) 平成20年度の総会について

総会は３年ごとに行われますが、次回の総会は「平成20年に可茂地区」で行う予定です。

(2) 研究大会

同窓会の皆様を中心に組織されています、岐阜県中学校技術・家庭科研究部会県大会が、平成19年に東濃地区で開催される予定です。皆様方のご支援とご協力をよろしくお願い致します。

家政学科

（事務局　瑞穂市立本田小学校　谷村三奈）

1　平成18年度の活動

・会員名簿の作成

平成18年度版を作成し、年次代表者に配布しました。

2　今後の活動

(1) 「総会及び同窓会」

次回は、平成21年８月に開催を予定している。

(2) 年次代表者会

総会及び同窓会開催に伴い、年次代表者、役員、世話役が集まり、活動の方向や総会の持ち方、進め方などについて検討する。平成21年４月頃、予定している。

(3) 同窓会名簿

毎年、会員名簿を作成し、年次代表者に配布を予定している。

英語英文学科　（事務局　岐阜大学教育学部附属中学校　山下敦子）

(1) 第１回本部役員会

○期　日：平成18年10月28日（土）

○場　所：岐大附属中学校

○内　容：①平成18年度理事・評議員会について（協議）

②平成18年度総会開催について（協議）

③名簿作成について（協議）

(2) 理事・評議員会

○期　日：平成18年12月３日（日）10：00

○場　所：岐大附属中学校

○内　容：①平成18年度総会開催について（協議）

②名簿作成について（協議）

③その他

(3) 平成18年度総会案内

○期　日：平成19年２月４日（日）９：30より受付開始　10時開会

○場　所：岐阜会館

○内　容：①総会（会務報告、会計報告、役員改選、新会長挨拶、その他）

②講演会　岐阜大学教育学部　教授　松川禮子先生

③懇親会

※　松川先生のすばらしいご講演があります。多数の皆様のご参加を願っています。

―・編集後記・―

☆同窓会報12号のお届け

安倍内閣が発足した。就任早々、訪中・訪韓し冷え切った両国との関係修復を手がけたことが功を奏してか、内閣支持率65％と高い国民の期待を担っている。かつて国民の大半は中流意識を持っていたという。今、年金問題、税制問題、医療制度問題等々課題は山積している。この頃、「格差」という言葉をしばしば耳にするし、暮らし向きは厳しくなったと多くの国民が感じている。キャッチフレーズの「美しい日本」構築への舵取りを期待したい。最重要課題の教育問題についてはとりわけ注視したい。

☆大学の取り組みと同窓会の使命

国立大学法人岐阜大学が発足して３年目を迎えた。「地域に貢献する大学」をめざして、我が教育学部は古田学部長のもと、着々と改革が進められている。

「特色GP」、「現代GP」も順調に展開され、多くの成果を収められた。今年から新規のGPが採択され、２ケ年計画で開発・推進がなされている。特色あるプログラムの成果に期待したい。

16ページのオープンカレッジは、同窓会員の子弟をターゲットとした事業である。教育学部志望者が一人でも多く出てくることを期待したい。同窓会員にどんなサービスが出来るかは、同窓会の運営では常に考えていくべき事柄であるが、これは一つの試みであり成果を期待したい。

☆教育研究実践助成事業

今年度は新しい実施要項での初募集となった。A版10頁の限られたスペースに教育実践をまとめるということで、応募者が減るのではないかとの心配もあったがそれは無用であった。現場には、新年度が始まると教育実践論文を目標に、意図的・計画的に教育実践に取り組む先生もおられると聞く。同窓会の主要事業の一つとして、本県教育の振興と発展に寄与するものと自負し一層の力を注いでいきたい。

☆平成18年度教員採用状況

採用試験に挑戦した現役は177名。昨年と同様に教育学部生の70％強にとどまっている。その中で岐阜県小中高特の受験者は138名、合格者は75名（54％）で現役が健闘した（他に県外合格者は37名）。教員養成を目的とする学部である以上、教員志望の学生が限りなく100％に近付くことを期待したい。

（文責　今尾）

第12号　平成18年12月発行	〒501-1193　岐阜市柳戸１番１
発行者　中舎　美津男	岐阜大学教育学部内
発行所　岐阜大学教育学部同窓会	TEL・FAX　058-293-2344